

全般季節予報支援資料 1か月予報 2019年12月12日

予報期間：12月14日～1月13日 気象庁地球環境・海洋部

全般季節予報

(1) 特に注意を要する事項

東・西日本と沖縄・奄美では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

(2) 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。東日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東・西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

(3) 確率

1か月	気温(%)	1か月	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
	低並高		少並多	少並多	少並多
北日本	20:40:40	北日本日本海側 北日本太平洋側	40:30:30 30:30:40	30:30:40 40:30:30	40:40:20
東日本	10:20:70	東日本日本海側 東日本太平洋側	40:40:20 20:30:50	20:40:40 50:30:20	50:30:20
西日本	10:20:70	西日本日本海側 西日本太平洋側	30:30:40 20:30:50	30:40:30 50:30:20	60:30:10
沖縄・奄美	10:20:70	沖縄・奄美	40:30:30	20:40:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:20:70	20:50:30	40:40:20
東日本	10:10:80	10:30:60	30:40:30
西日本	10:10:80	10:30:60	30:40:30
沖縄・奄美	10:10:80	10:30:60	20:40:40

最近1週間の天候経過

最近1週間(12/5～12/11)は、前半は北日本を中心に冬型の気圧配置となり、日本海側では曇りや雨または雪の日が多かった。後半は、天気は数日の周期で変わったが、本州南岸の気圧の谷や前線の影響で雲が広がりやすかった。沖縄・奄美では、高気圧縁辺の湿った空気や前線の影響で、曇りや雨の日が多かった。

気温は、北・西日本と沖縄・奄美で平年を下回り、東日本は平年と同値だった。降水量は、沖縄・奄美で平年を上回ったほかは、平年を下回った。日照時間は、北日本と東日本日本海側で平年を上回った

ほかは平年を下回った。

予報資料の解釈

● 1か月 (12/14~1/10)

- 熱帯の対流活動は、インド洋西部、海洋大陸付近および太平洋の日付変更線付近で対流活発となる予測で、それぞれ海面水温が高い領域に対応している。200hPa 速度ポテンシャルでは、インド洋西部と海洋大陸付近で上層発散偏差が明瞭。一方、インド洋東部では対流不活発で上層収束偏差の予測。MJO の東進は不明瞭だが、1週目から2週目に太平洋を東進するメンバーが見られる。
- 200hPa 流線関数では、アラビア半島付近で高気圧性循環偏差、チベット付近で低気圧性循環偏差、東シナ海付近で高気圧性循環偏差、日本の南東海上に低気圧性循環偏差が見られ、大西洋からの波束伝播や、熱帯の対流活動偏差が寄与していると考えられる。この波列パターンにより、1週目を中心に偏西風は日本の北を流れる。一方、3~4週目は位相がやや西寄りに変わるため、北日本を中心に北西の流れとなり、寒気を南下させやすいパターンとなる。
- 500hPa 高度は、ユーラシア大陸上に波列パターンが見られ、東経 50 度付近と日本付近が正偏差、大西洋と東経 90 度付近から東シベリアにかけて負偏差。日本付近は週別の変化が大きいため、週毎の記述を参照。
- 850hPa 気温は、極東域の中緯度帯は広く正偏差に覆われ、中国から西日本にかけては平年差+2°C 以上の予測。
- 海面気圧は、日本の東は正偏差、大陸は広く負偏差が広がり、東日本以南では冬型の気圧配置は弱い見込み。一方、カムチャツカ付近は負偏差となり、北日本では平年と同程度の冬型の気圧配置を見込む。

● 1週目 (12/14~12/20)

- 500hPa 高度は、日本付近は顕著な正偏差に覆われる。5880m 線が台湾付近まで北上する。
- 海面気圧は、日本付近から日本の東にかけて正偏差、大陸では負偏差が広がり、冬型の気圧配置は弱い見込み。本州南岸は相対的な気圧の谷となるが、沖縄・奄美の南は高気圧が張り出す。
- 850hPa 気温は、日本付近は東シナ海を中心とする顕著な正偏差に覆われる。
- 以上から、北・東日本日本海側と沖縄・奄美では少雨・多照傾向。北・東・西日本太平洋側では、多雨・寡照傾向。西日本日本海側では平年と同様の天候を見込む。気温は、全国的に高い。

➤ 想定される天候

- 北日本日本海側では、寒気の影響が弱く、平年に比べ曇りや雪の日が少ない。
- 東日本日本海側では、寒気の影響が弱く、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。
- 西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- 北・東・西日本太平洋側では、低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ない。
- 沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けにくく、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

● 2週目 (12/21~12/27)

- 500hPa 高度は、日本付近は引き続き正偏差に覆われるが、1週目に比べると偏差は小さい。
- 海面気圧は、大陸から日本付近は負偏差、日本の東は正偏差で東日本以南では冬型の気圧配置は引き続き弱く、本州南岸には気圧の谷が予測されている。
- 850hPa 気温は、日本付近は+1°C以上の正偏差に覆われ、西日本と東日本の一部は+2°C以上の暖かい空気に覆われる。
- 以上から、東日本日本海側では少雨・多照傾向。東・西日本太平洋側では、多雨・寡照傾向。北日本、西日本日本海側、沖縄・奄美では平年と同様の天候を見込む。気温は、北日本は平年並、東・

西日本と沖縄・奄美では高い。

・ **想定される天候**

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。
- ・ 東日本日本海側では、寒気の影響が弱く、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。
- ・ 西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。
- ・ 北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 東・西日本太平洋側では、低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ない。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

● **3～4週目 (12/28～1/10)**

- ・ 熱帯の対流活動は、海洋大陸付近で対流活発となる予測。この影響もあり、200hPa 流線関数では、華南付近で高気圧性循環偏差、日本の東で低気圧性循環偏差となり、北日本を中心に寒気が南下しやすい場になる見込み。
- ・ 500hPa 高度は、極渦の一部がオホーツク海へ南下し、北・東日本は負偏差に覆われる予測。極渦の動向については不確実性が大きいですが、前述のような熱帯起源の寄与も考えられることから、北日本を中心に寒気が南下しやすい場と考える。
- ・ 海面気圧は、アリューシャン低気圧が強くと、日本付近は負偏差に覆われる。大陸も負偏差に覆われているが、偏差の程度が小さいため、全国的に平年と同程度の冬型の気圧配置となる見込み。
- ・ 850hPa 気温は、北日本は負偏差に覆われる。東・西日本は平年値近傍、沖縄・奄美は正偏差に覆われる。
- ・ 以上から、全国的に平年と同様の天候を見込む。気温は、北日本は低温傾向、東・西日本はほぼ平年並、沖縄・奄美は高温傾向。

▶ **想定される天候**

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。
- ・ 東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。
- ・ 西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

気象庁ホームページ

○季節予報 https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/001_00.html

○向こう1か月の天候の見通し(1か月予報の解説) <https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/pdf/pdf1/001.pdf>
も参照してください。

この資料は、気象事業者等が気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。